事業所名　ままはぐ市原五井事業所（児童発達支援）

支援プログラム

作成日　令和8 年 8 月 1 日

法人（事業所）理念		『ご利用児とご家族を支え、一緒に悩み、喜び、共に歩む。』 それぞれのご利用児に合わせて、楽しさや喜びを感じていただけるような時間を過ごせる環境を整える。 ご利用児が表現してくれる小さなサインを見逃さず受け止め、強みを大切に成長発達のための支援をしていく。 ご家族のレスパイトの提供、ご相談など、ご家族に寄り添い共によりよい方法を考えサポートしていく。
支援方針		一人ひとりに合った「たくましく生きる力」を育て活かすことが、障がい者支援において最も重要であると位置づけています。 ご利用児に真っ直ぐ向き合い、何が必要かを考え実践するための『環境』を整え、本人の気持ちや保護者様の思いを大切にした『個別支援計画』を作成し、自立への一歩を踏み出す支援をしていく。一人ひとりにあった経験や交流を通じて「楽しさ」「喜び」を感じ笑顔になれるようさまざまな体験・交流・支援を行います。
営業時間		9 時 0 分から 17 時 0 分まで　／　送迎実施の有無：（あり）　なし
		支　援　内　容
本人支援	健康・生活	○健康状態の把握…毎日、検温（こもり熱や低体温）血圧、酸素濃度を測定。また、個々のご利用児の日々の体調を把握し変化が無いか確認し、医療ケアにも細心の注意を払う。 ○食事…ご家族に個々のご利用児に合わせた手技のレクチャーを受ける。 　経鼻経管栄養・胃管栄養…主治医の医療指示書にそって看護師が行う。 アレルギーのあるご利用児には… ・ご家庭から持参してきたお弁当は他のご利用児のものと分けて冷蔵庫に保管する。 ・食事の準備は職員1人がおこない、まずアレルギーのあるご利用児から準備する。 ・キッチンの見えるところにアレルギーのあるご利用児の名前と食べ物が一目でわかるように一覧表を掲示し、支援員同士周知する。 ・アレルギーのあるご利用児専用のキッチンばさみ、お皿、スプーン、フォーク、トレー、コップ、洗浄スポンジ等を使用し、他のご利用児の食器と違う場所へ保管する。 ・トレーを含め食器類は分かりやすいように派手な色、模様が入ったものを使用。アレルギーが無いご利用児と違いが分かるようにする。ご利用児ごとに記名し、使い回ししない。 ・他のご利用時のお弁当に触れた際は、必ず手を洗う。 ○排泄…自立排泄に向けての支援。導尿、浣腸などは医療指示書にそって看護師が行う。 ○睡眠…それぞれの生活リズムに合わせて事業所で安心して過ごせるようにする。（午睡の時間に眠剤を使っているかなど、保護者とも連絡を密に行う） ○身辺自立…着替えや片付けなど、その子に合ったやり方で出来るよう、出来た喜びが味わえるよう支援していく。
	運動・感覚	ＰＴ，ＯＴとの連携、リハビリ同行などで、ご利用児の得意な動き、苦手な動きなどを知り、感覚過敏や鈍麻へ配慮しながら遊びや生活に取り入れていく。 ・重力に対して真っすぐに立つ、座るなど姿勢を維持することでバランス感覚を養う。 ・ボディーイメージを作る。 ・身体の向きを感知したり、揺れやスピードを感じとる。姿勢の保持やバランス、目の動きや覚醒に刺激を与える。 ・手首や指、身体を動かすことで、微細運動を刺激し変形、拘縮を予防する。 ・歌を聴く、歌う、拍子に合わせた動きを行うなど、耳からの刺激でリズム感や反射機能を養う。 【例】 ◆タオルブランコ◆ ・タオルに包まれることで安心感を味わう。 ・床から離れて浮く感覚で自分の身体や動きを感じる。 ・持ち上げる時、低い所から高い所で景色が変わる。 ・支援員と顔を合わせ、ワクワクドキドキを味わう。 ◆絵具の感触遊び◆ ・絵の具で手形や足形をとってみよう。 ・絵の具とお湯の温度の違い、心地よさを知る。 ・冷たい、ぬるぬる、くすぐったいの感覚を刺激する。 ・視覚で色を感じ視線や手足の動きで気持ちを表そうとする。 ・手を合わせて支援員との触れ合いも楽しめるようにする。 ・赤、青、黄色、色々な色があることを知らせ、声や言葉、目や顔の動き等でご利用児自身が選択できるよう言葉がけをしていく。 ・ハケで足の裏や手のひらを刺激する。 ・子どもに合わせた動きをして、無理に開いたり押したりしないようにする。

	認知・行動	目の動き、耳からの反応、鼻からの匂い、口からの味覚あそびなど…ＳＴと連携をとり支援に取り入れていく。 ・筋肉や関節の中で得る感覚を感知することで力の加減を知る。 ・身体の部位の認識や、物体と自分の身体の位置関係を捉えることで空間認知能力が育つようにしていく。 ・季節に合わせた歌、身近な生き物、食べ物、乗り物などが歌詞に出てくることで、名前を覚えたり季節が感じられ、繰り返し歌うことで楽しさを味わえるようにする。
	言語 コミュニケーション	・目の動き、声、表情、身体の動き、力の入れ具合、心拍数の動きなどで自分の思いを伝える力を引き出していけるように支援していきます。 ・目と目を合わせて話し、身体に触れあって温もりや愛情を伝え愛着関係を築く。 ・カードや〇、×サインなど一人ひとりに合った方法でお子様の気持ちを読み取りコミュニケーションの幅を広げていきます。
	人間関係 社会性	・支援員と信頼関係を構築し安心して通所できるよう支援していく。 ・小学校、保育園、幼稚園に通える、移行を目指す。 ・支援員や友達と一緒に歌を歌ったり、笑ったりすることで楽しい雰囲気がうまれ心地よさを感じられるように支援していく。 ・散歩や施設外に出かけた時、『こんにちは。』と挨拶したり、お話することで家族以外の人と交流し、地域の人や環境に触れ、人と関わることの楽しさや豊かな関係性がつくれるようにしていく。

家族支援	【児童発達支援】 ご家族が安心して子育てをすることができるように身近な良き相談相手となり、悩みや困りごとなど思いを受け止め、丁寧に寄り添っていきます。 お子様の身体のケアなどを担う中で抱え込むことがないように、リラックスできる時間があったり心にゆとりが生まれてくるようサポートさせていただきます。 保護者のご意向に合わせて地域保育園と連携し移行に繋げていきます。 保護者やご家族同士の繋がり、仲間づくり、情報交換ができる交流会・講習会を開催します。	移行支援	主に6歳までの未就学のお子様を対象とした通所事業所です。お子様と一緒に楽しさや喜びを感じていただけるような時間を過ごし、成長のサポートをします。又、看護師・保育士が常駐していますので、重症心身障がい児・医療ケア児のお子様も安心してご利用頂けます。児童発達支援での体験や療育を通して、保育園へ移行していけうるよう支援していきます。
地域支援・地域連携	・地域の老人ホームや保育園との交流、訪問し共に楽しく過ごす会などを開催する。 ・事業所にて夏祭りやバザーを開催し、地域の方を招き交流をする。 ・地域の公園の清掃活動や畑をお借りして種まき体験、収穫体験、など一年を通して、地域の農家さんと交流。	職員の質の向上	・市町村で開催される研修・セミナーへ積極的に参加。 ・事業所内でのカンファレンスや支援・理念研修。 ・児発管やコーディネーター等の管理者へステップアップするための研修受講。
主な行事等	４月　お花見　５月こどもの日のお祝い　７月七夕祭り　８月プール・夏祭り　９月お月見 １０月ミニ運動会　１１月紅葉　１２月クリスマス会　１月新年のお祝い　２月雪遊び・節分・豆まき　３月卒業式・進級お祝い会		